

For Discussion Purpose Only

これまでの公開されている情報等を元に発表者が作成したものであり、研究所の見解を示したものではありません。

アルゼンチン・ブラジル・メキシコの経済・投資環境

2020年11月6日 農林水産省 農林水産政策研究所 林瑞穂

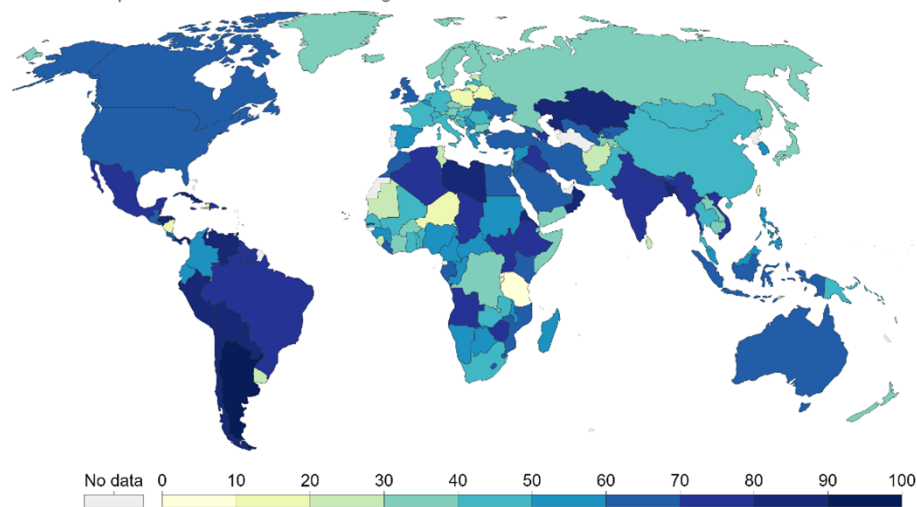
COVID-19対策と経済パフォーマンス

✓ オックスフォード大学が、「学校閉鎖」、「職場閉鎖」、「公共イベントの中止」、「集会に対する規制」、「公共交通の閉鎖」、「外出の自粛要請」、「国内の移動制限」、「海外への渡航制限」、「国民への啓蒙活動」について指標化し、各国政府のCOVID-19に対する厳格さを表す指数を作成。

各国政府におけるCOVID-19対策の厳格指数(2020年9月末)

COVID-19: Government Response Stringency Index, Sep 30, 2020

This is a composite measure based on nine response indicators including school closures, workplace closures, and travel bans, rescaled to a value from 0 to 100 (100 = strictest). If policies vary at the subnational level, the index is shown as the response level of the strictest sub-region.



Source: Hale, Webster, Petherick, Phillips, and Kira (2020). Oxford COVID-19 Government Response Tracker – Last updated 30 September, 23:30 (London time)

Note: This index simply records the number and strictness of government policies, and should not be interpreted as 'scoring' the appropriateness or effectiveness of a country's response.
OurWorldInData.org/coronavirus • CC BY

厳格指数と2020年第2四半期GDP成長率(前期比)

	厳格指数	GDP成長率 2Q 2020
アルゼンチン	91.67	-16.2%
ブラジル	72.69	-9.7%
メキシコ	73.61	-17.1%
日本	37.04	-7.9%
米国	62.5	-9.1%

(出所) Our World in Data, OECD Stat, Diamond on lineおよび国際金融情報センター等との意見交換をもとに、発表者作成。

(ご参考)IMFのGDP成長率予測(年率)

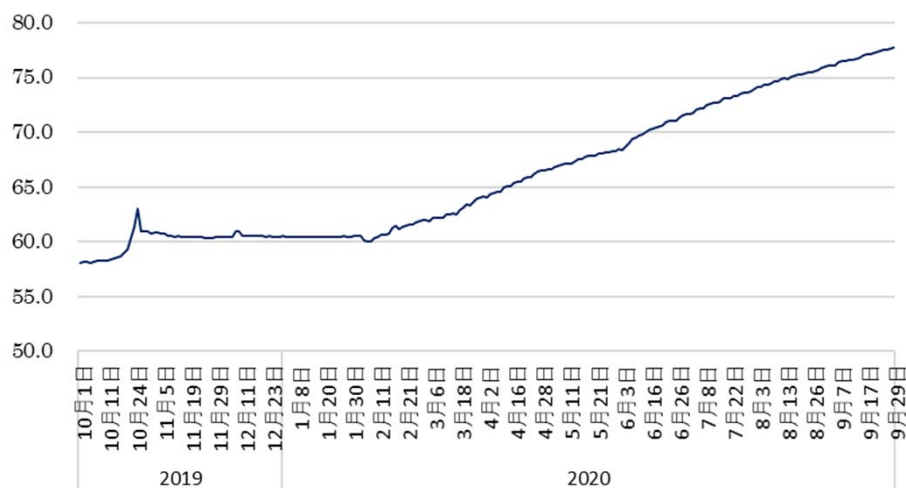
単位:%	2019年実績	2020年予測			2021年予測
		2019年10月 時点	2020年4月 時点	2020年10月 時点	2020年10月 時点
アルゼンチン	-2.1	-1.3	-5.7	-11.8	4.9
ブラジル	1.1	2.0	-5.3	-5.8	2.8
メキシコ	-0.3	1.3	-6.6	-9.0	3.5
日本	0.7	0.5	-5.9	-5.3	2.3
米国	2.2	2.1	-5.2	-4.3	3.1

(出所)IMFのWorld Economic Outlookをもとに、発表者作成。

アルゼンチンの市場動向

- ✓フェルナンデス政権が始まった2019年12月頃から2020年3月頃まで安定していた市場動向は、3月19日にCOVID-19対策として外出禁止令が発令された後、売られる局面となった。
- ✓2020年第2四半期のGDP成長率は、前期比で▲16.2%、前年同期比で▲19.1%となった。
- ✓2020年8月に民間債権者との650億ドルの債務交渉が決着し、アルゼンチンの外貨建て長期信用格付けが、2020年9月にS&Pによって「SD(選択的デフォルト)」から「CCC+」へ、Moody'sは「Ca(ネガティブ)」から「Ca(安定的)」へ引き上げる。

アルゼンチンペソの対ドル推移
(2019年10月～2020年9月)



アルゼンチン株価指数(MERVAL)推移
(2019年10月～2020年9月)



アルゼンチンにおける留意点

- ✓マクリ政権期にIMFから調達した440億ドルの借換交渉の動向
→国民からの不満が生じない形で、グスマン経済相を中心とするアルゼンチンサイドがIMFと折り合いをつけることができるのか。
- ✓左派的姿勢を示すフェルナンデス政権の現実的な対応→副大統領であるクリスティーナ・キルチネル氏との距離感。
- ✓フェルナンデス政権の課題→外貨規制や輸出税により農産品を含む輸出に対する企業のビジネスマインドの改善。
- ✓中国との距離感→マクリ政権時代より、現政権は中国との距離感を縮めている状況。
- ✓コロナの隔離政策がいつまで継続するのか。

ブラジルの市場動向

- ✓ COVID-19感染者の拡大や保健大臣更迭などの国内要因を背景に、為替・株ともに売られる局面となった。
- ✓ 2020年第2四半期のGDP成長率は、前期比で▲9.7%、前年同期比で▲11.4%となった。
- ✓ ブラジルの外貨建て長期信用格付けが、2020年4月にS&Pによって見通しを「ポジティブ」から「安定的」へと引き下げられる。「BB-」は不変。Moody'sは「Ba2」。

ブラジルレアルの対ドル推移
(2019年10月～2020年9月)



ボベスパ指数 (Ibovespa) 推移
(2019年10月～2020年9月)



(出所) ブラジル中央銀行、B3、Investing.com

ブラジルにおける留意点

✓税制や行政システム改革等の進捗

→税制の簡素化、公務員の待遇の見直し、海外からの投資を促進するための制度変更がどの程度まで実現可能であるのか。

✓アマゾン地域をはじめとする環境問題

→欧州などは、ボルソナーロ政権の環境保全に対する姿勢に批判的。今後のブラジルの対応策に注視が求められる。

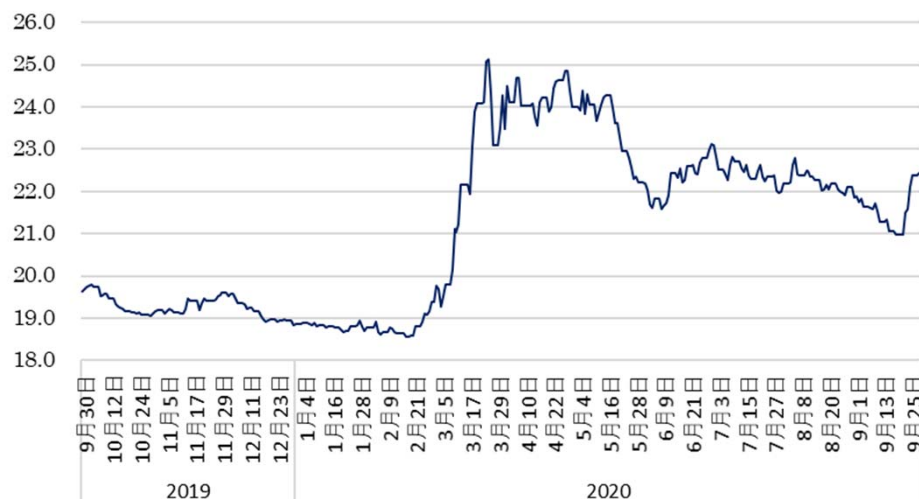
✓パウロ・ゲデス経済相やテレーザ・クリスティーナ農務大臣などの主要大臣の去就

→地元メディアでは度々取り扱う話題であり、市場インパクトは大きい。

メキシコの市場動向

- ✓世界的なCOVID-19感染拡大に伴う原油価格の下落を受けて、2020年3月頃から市場はメキシコ売りとなる。しかし、主要国の金融緩和が進み、また国内の感染対策が緩和されると、戻す局面を迎えた。
- ✓2020年第2四半期のGDP成長率は、前期比で▲17.1%、前年同期比で▲18.7%となった。
- ✓メキシコの外貨建て長期信用格付けが、2020年3月にS&Pが「BBB+」から「BBB」へ、4月にMoody'sが「A3」から「Baa1」へ引き下げられる。見通しはいずれも「ネガティブ」。

メキシコペソの対ドル推移
(2019年10月～2020年9月)



メキシコボルサ指数 (IPC指数) 推移
(2019年10月～2020年9月)



メキシコにおける留意点

- ✓ 米国の対墨方針→米墨加協定(USMCA)の合意に至ったが、貿易赤字削減のため米国のメキシコに対する政策の継続性に疑問が持たれる。
- ✓ エネルギー政策
→メキシコ石油公社(PEMEX)のような国営企業を重視し、民間の活かに頼らない傾向が継続するのか否か。
- ✓ 緊縮財政の動向
→コロナ対策を含めて、景気対策を打ち出す可能性はあるのか。

ご清聴くださいまして、誠に有難うございました。